

6年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	学習活動	評価規準
4月	つないで、つないで、一つのお話 1時間（話・聞①） ◎話し手の一文の内容を捉えながら聞き、自分の言葉で続きのお話を作ることができる。（話・聞(1)エ、伝国(1)イ(カ)） ■グループで話し合い、一つのお話を作る。	1	1 教材文を読み、活動の目的と流れを確かめる。 2 最初と最後の一文を決め、グループで二周する間にお話を作る。 3 「もっと楽しもう」に挑戦する。 4 P8「いつも気をつけよう」の「話すとき」「聞くとき」を読んで確かめる。	【関】 お話を作って話すことに興味をもち、積極的に参加しようとしている。 【話・聞】 話し手の意図を捉えながら聞き、話す事柄の順序を考えて続きのお話を作ることができる。 【言】 前の人の言葉を受け、それに合うような言葉を考えてお話を作っている。
4月	支度 1時間（読①） ◎詩を読んで感じたことや考えたことが伝わるように音読することができる。（読(1)ア） ○詩における比喩や反復の表現に気づくことができる。（伝国(1)イ(ケ)） ■詩を味わう。	1	1 扉の詩を読み、目次やP6「六年生を見わたそう」（このページは、学習の中で適宜確認するとよい。）を見て、1年間の学習を見通す。 2 詩を音読する。 ・一人読み、グループ読み、全員読みと形態を変えて繰り返し音読する。 3 反復や比喩などの表現の工夫を見つける。 ・どのような情景が描かれているか想像する。	【関】 詩の情景を想像しながら、自分なりに6年生1年間の学習に対する緊張や期待を感じて音読しようとしている。 【読】 「心の支度」とはどのようなことか、考えたことが伝わるように工夫して音読している。 【言】 反復や比喩など、表現の工夫に気づいている。
4月	1 登場人物の心情をとらえ、感想をまとめよう			
	カレーライス 5時間（読⑤） ◎登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、自分の考えをまとめることができる。（読(1)エ） ○教材文を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。（読(1)オ） ・自分の感想を表すために、的確な言葉を用いることができる。（伝国(1)イ(カ)） ■感想を書く。 ☆自我の目覚めや、大人との関係を扱った題材（道徳）	1 2 3 4 5	1 学習の見直しをもつ。 ・教材文の教師の範読を聞く。 ・一言感想を発表する。 ・「登場人物の心情をとらえながら読み、感想をまとめよう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 物語の設定やあらすじをつかむ。 3 場面ごとの「ぼく」の心情を捉える。 ・「ぼく」の心情や言動が分かる表現を探す。 ・象徴的に使われている言葉や表現の効果を考える。 4 「父」の視点から教材文を読む。 ・「お父さん」の心情を言動から想像する。 5 「ぼく」と自分の経験を重ね合わせる。 ・共通点や相違点を箇条書きで書く。 6 感想を書く。 ・P29の観点から一つを選ぶ。 7 感想文をグループで読み合う。 ・自分と友達の共通点や相違点を交流する。 ・最初の一言感想と比べて違いを見つける。 8 学習を振り返る。 ・心情の読み取り方や、自分の感想の中心について確認する。	【関】 登場人物の相互関係や心情を理解し、自分の経験と重ねて共通点や相違点を探しながら読もうとしている。 【読】 ・登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、自分の感想をまとめている。 ・友達と感想を交流することにより、自分の考えを広げたり深めたりしている。 【言】 自分の感想を表すことができる言葉を選んで、文章を書いている。
4月	漢字の広場① 1時間（書①） ◎5年生までに配当されている漢字を、正しく文の中で使うことができる。（伝国(1)ウ(ア)） ・書いた文章を読み直し、表現の適切さを確かめることができる。（書(1)オ） ■絵を説明する文章を書く。	1	1 教科書の絵を見て、町のあちこちで起こっているいろいろな出来事を想像する。 2 提示された言葉を使い5年生までに習った漢字を正しく書いて、例にならって、記事のようにそれぞれの出来事を伝える一文を書く。	【関】 絵を見て、様子を想像しながら文章を書こうとしている。 【書】 表現の効果などを確かめている。 【言】 5年生までに習った漢字を正しく使って、文を書いている。
4月	春のいぶき 2時間（書②） ◎「春」を表す言葉とそれらが	1 2	1 「春」とは何かを考える。 ・「春」からイメージするものを発表する。 2 俳句と、二十四節気の解説を読む。	【関】 「春」を感じるものを探そうとしている。 【書】 ・「春」を感じるものを一つ取り上げ、200

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	学習活動	評価規準
	もつ意味を知り、その語感、使い方に対する感覚などについて関心をもつことができる。(伝国(1)イ(カ)) ○「春」を感じるものから書くことを決め、表現の効果などを確かめたり、工夫したりして文章を書くことができる。(書(1)ア・オ) ■「春」を感じるものについて文章を書く。		2自分が感じる「春」について書く。 ・自分が「春」を感じるものを書き出し、その中から一つを選ぶ。 ・言葉や表現を工夫して200字程度の文章を書く。 3書いた文章をグループで発表し合う。 ・「春」を感じる表現の工夫に着目して助言や感想を伝え合う。	字程度の文章を書いている。 ・「春」を感じる表現やその効果を工夫している。 【言】「春」を表す言葉の語感、言葉の使い方について関心をもっている。
5月	2 筆者の意図をとらえ、自分の考えを発表しよう			
	笑うから楽しい 時計の時間と心の時間 7時間(読⑦) ◎筆者の主張と事例などについて、考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(読(1)オ) ○事実と感想・意見などの関係を押さえ、筆者の意図を捉えながら、自分の考えを明確にして読むことができる。(読(1)ウ) ・文章には、いろいろな構成があることを理解することができる。(伝国(1)イ(キ)) ■意見を述べた文章を読み、筆者の考えに対する自分の考えを発表する。	1 2 3 5 6 7	1学習の見通しをもつ。 ・単元名とリード文を確認し、「筆者の意図をとらえ、具体例を挙げながら自分の考えを説明する」という学習課題を確認し、学習計画を話し合う。 2「笑うから楽しい」を読む。 ・具体的な事実の部分と筆者の意見を整理しながら、構成を捉える。 ・筆者の考えに対する自分の考えを述べる。 3「時計の時間と心の時間」を、自分の考えをもちながら読む。 ・筆者の挙げた事実や例の要旨をノートにまとめ、筆者の意見を整理する。 ・文章の構成を捉える。 ・筆者の説明の工夫を理解する。 4筆者の主張に対する、自分の考えをまとめる。 ・経験や例で自分が考えたことを、筆者の意見を取り入れながらノートにまとめる。 5自分の考えを発表する。 ・意見を聞き合い、感想を交流する。 ・考えが多様であることを確認する。 6学習を振り返る。 ・事例と考えの関わりについて確かめる。	【関】文章の内容や筆者の考えに関心を持ち、自分の考えをもとうとしている。 【読】 ・筆者の主張と根拠を読み取り、自分の経験を振り返り、自分の考えをもとうとしている。 ・筆者の主張について、自分の考えを具体例とともに発表できている。 ・発表し合うことで、友達と自分との共通点や相違点を明らかにし、自分の考えを深めている。 【言】筆者が結論に至るまでの過程について、文章の構成を理解している。
5月	学級討論会をしよう 【コラム】伝えにくいことを伝える 8時間(話・聞⑧) ◎互いの立場や意図をはっきりさせながら、疑問点を整理して自分の意見を言ったり、質問をしたりして、討論することができる。(話・聞(1)オ) ○討論会の話題に沿って、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることができる。(話・聞(1)エ) ・討論会における言葉の使い方などについて関心をもつことができる。(伝国(1)イ(カ)) ■討論会をする。 ☆互いの主張・根拠を聞き合い、対立点を調整しながら話し合う(社会・特別活動)	1 2 3 4 5 6 7	1学習の見通しをもつ。 ・今までの話し合いで、うまくいったことや難しかったことなどを出し合う。 ・「立場を明確にして主張し合い、考えを深め合う討論会をする」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2討論会について知る。 ・役割や進め方を理解する。 ・音声CDを聞いて、説得力のある話し方や質問のしかたについて考える。 3議題を決める。 ・全員が、肯定・否定、両方の立場から自分なりに理由を挙げて考える。 4グループを作り、役割を決める。 ・それぞれの役割で重要な点を確認する。 5討論会の準備をする。 ・進行役のグループは、発言の順番や時間の計画を立てる。 ・主張するグループは、主張や根拠を整理する。 6学級討論会を開く。 ・聞くグループは、メモを取りながら聞き、質問したり、最後にまとめを述べたりする。 ・討論会の様子を記録し、相互評価をする。	【関】討論の形式や話題に興味をもち、積極的に参加しようとしている。 【話・聞】 ・自分の主張・根拠と対比しながら聞いている。 ・話題に対する肯定・否定両方の立場で自分の考え方、感じ方をもっている。 ・会議の順序や進め方の調整、対立の調整などが必要なことを理解し、話し合っている。 【言】意見や質問のよりよい述べ方や、言葉の選び方に関心をもっている。

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	学習活動	評価規準
		8	<ul style="list-style-type: none"> ・役割を交代して再度討論会を行う。 7 学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・討論会を通して、進め方で工夫したことや自分の考えが広がったことを確かめる。 8 意見の伝え方について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・P50のコラムを読む。 ・提示された場面を選んでやり取りする。 	
6月	漢字の形と音・意味 2時間 (伝国②) ◎漢字を組み立てている部分には、音を表すものや意味を表すものがあることを理解することができる。(伝国(1)ウ(ア)・(イ))	1 2	1 「同じ部分をもつ漢字」には、形と音が共通する場面があることを理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・P52の設問に取り組む。 2 「同じ部分をもつ漢字」には、意味につながりがある場面があることを理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・付録「六年間に習う漢字」から、提示された四つの部分をもつ漢字を集める。 ・部分が表す意味を考えた後、漢字辞典で調べる。 	【関】 漢字の形・音・意味に興味をもって課題に取り組もうとしている。 【言】 漢字の特質について理解し、調べたことを発表している。
6月	本は友達 私と本 森へ 【コラム】施設を利用して、本の世界を広げよう 5時間 (読⑤) ◎これまでの本との関わり方を振り返り、グループで発表し合うことで、今後の読書生活の幅を広げることができる。(読(1)オ・カ) ・自分の考えを明確に表現するため、語句と語句の関係を理解し、文章全体の構成の効果を考えることができる。(伝国(1)イ(オ)・(キ)) ■ 心に残った本について文章にまとめる。 ☆自然の美しさを感じ、生き物への愛を感じる心を養う題材(道徳) ☆読書活動(図書館活用)	1 2 3 4 5	1 学習の見通しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・リード文や「活動の流れ」を読み、目標と学習計画を立てる。 2 自分と本との関わりを振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・読書記録などをもとにする。 ・調べ学習をするとき、使った本を思い出す。 3 P56を参考に、自分と本との関わりについて、考えたことを交流する。 4 「いちばん心に残っている本」について考える。 5 「森へ」を読む。 <ul style="list-style-type: none"> ・印象深い部分に線を引くなどして、その理由を考えてまとめる。 ・P70の作例を読み、自分の感想と比べ、気づいたことをグループで交流する。 6 「いちばん心に残っている本」について文章を書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・その本との関わりを考え、選んだ理由が伝わるようにする。 ・書き終わったら、友達と交流する。 7 学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・学習やP72のコラムなどを参考に、今後の読書生活について幅の広げ方を考える。 	【関】 これまでの読書体験を振り返り、本との関わりについて考えようとしている。 【読】 <ul style="list-style-type: none"> ・本を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり、深めたりしている。 ・今までの読書体験を振り返り、その本と自分の関わりから「いちばん心に残っている本」を選んで文章を書いている。 【言】 自分の考えを明確にして、語句と語句の関係や構成を工夫して文章を書いている。
6月	漢字の広場② 1時間 (書①) ◎5年生までに配当されている漢字を、正しく文の中で使うことができる。(伝国(1)ウ(ア)) ・書いた文を読み直し、表現の適切さを確かめることができる。(書(1)オ) ■ 絵を説明する文章を書く。	1	1 教科書の絵を見て、遊園地での人々の行動を想像する。 2 提示された言葉を使い、5年生までに習った漢字のもつ意味を考えながら、同音異義語などに注意して正しく使い、例にならって遊園地での人々の行動を文にする。	【関】 挿絵を見て、様子を想像しながら文を書こうとしている。 【書】 表現の効果などを確かめている。 【言】 5年生までに習った漢字を正しく使って、文を書いている。
6月	河鹿の屏風 1時間 (読①) ○読み聞かせを聞きながら、登場人物の相互関係や心情、場面を捉えることができる。(読(1)エ、伝国(1)イ(カ)) ■ 昔話の読み聞かせを聞く。	1	1 読み聞かせを聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ・人物や場面の様子を想像する。 ・どのような情景や人物像を思い浮かべたかを発表し合う。 2 P256「河鹿の屏風」の本文を、自分で読む。	【関】 昔話に興味をもち、読み聞かせを楽しもうとしている。 【読】 昔話の読み聞かせを聞いて、場面の情景や登場人物の相互関係や心情を想像している。 【言】 言葉のリズムや表現の美しさを、楽しみながら聞いている。

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	学習活動	評価規準
6月	夏のさかり 2時間(書②) ◎「夏」を表す言葉を知り、それらの言葉のもつ語感、使い方に対する感覚などについて関心をもつことができる。(伝国(1)イ(カ)) ○「夏」から想像する言葉を集めて俳句を作り、表現に着目して助言し合うことができる。(書(1)ア・カ) ■俳句を作る。	1 2	1 二十四節気の解説や俳句を読む。 ・自分が感じる「夏」と比べる。 2 1で自分が感じた夏の風景などを俳句に表す。 ・俳句の形式や約束を確認する。 ・言葉や表現を工夫する。 3 書いた俳句をグループで発表し合う。 ・友達の表現に着目し、助言し合う。	【関】「夏」を感じるものや風景を探そうとしている。 【書】 ・俳句の形式を知り、「夏」を感じるものや風景の俳句を作っている。 ・作った俳句を読み合い、表現に着目して感想を伝え合っている。 【言】「夏」を表す言葉の語感、言葉の使い方について関心をもっている。
6月 7月	3 町のよさを伝えるパンフレットを作ろう ようこそ、私たちの町へ 12時間(書⑩) ◎パンフレットという様式の特徴を理解したうえで、集めた事柄を整理し、文章全体の構成や、目次や見出し、リード文、解説文などを工夫することができる。(書(1)ア・イ、伝国(1)イ(キ)) ○引用したり、写真や図を用いたりして、伝えたいことが明確になるように書くことができる。(書(1)ウ・エ・オ) ・パンフレットについて、目的や構成の観点から助言し合うことができる。(書(1)カ) ■町のよさを多くの人に伝えるための文章を書き、編集する。 ☆修学旅行のまとめや、卒業文集を編集する。(特別活動) ☆写真や絵、図表を効果的に活用し、紹介のためのパンフレットを作る。(社会・総合的な学習の時間) ☆調べ学習(図書館活用)	1 3 4 6 7 8 11 12	1 学習の見通しをもつ。 ・自分の町のよいところや特徴を話し合う。 3 ・パンフレットを集め、そこにどのような情報が書いてあるかを調べる。 ・「町のよさを伝えるパンフレットを作ろう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 パンフレットの構想を練る。 ・ブレインストーミングをしたり、図表を使ったりして、アイデアを出す。 ・意見を観点ごとに整理する。 4 取材をする。 ・取材の分担を決める。 6 ・学校図書館などを活用し、資料のもとになる情報を集める。 ・知りたいことに応じて、適切な取材方法を選ぶ。 7 4 パンフレットの構成を決める。 ・相手や目的に応じて情報を取捨選択する。 ・ページの割り付けや目次立てを考える。 8 5 パンフレットを作る。 ・記事の下書きをグループで読み合い、推敲する。 11 ・割り付けに従って記事や写真などを配置する。 ・清書し、完成させる。 12 6 パンフレットを読み合い、互いに助言し合う。 ・学校図書館や校内に提示してもよい。 7 学習を振り返る。 ・感想を参考に、町のよさを伝えるために、どのような工夫をしたかを確かめる。	【関】構成や記述のしかたを考え、パンフレットを作ろうとしている。 【書】 ・書くことを決める際、ブレインストーミングを活用して、アイデアを出し合っている。 ・文章全体の効果を考えて構成するとともにキャッチコピーを付けるなど、表現を工夫して書いている。 ・目的や相手の知りたい情報に応じて、文章の内容を考えている。 ・図表やグラフの特徴、効果を考えて用いている。 ・他の人の文章について、目的に照らしてよりよくするための助言をしている。 【言】効果という観点から構成や表現を考えて書いている。
9月	せんねん まんねん 1時間(読①) ◎詩を読んで感じたことや考えたことが伝わるように音読することができる。(読(1)ア) ○詩における反復表現の工夫に気づくことができる。(伝国(1)イ(ケ)) ■詩を味わい、音読する。	1	1 詩を音読する。 ・詩を読んで、自分の感じたことを書く。 ・自分の感じたことが伝わるように工夫する。 ・詩における反復表現の工夫に気づく。 2 グループで音読発表をする。 ・友達の音読のよいところや工夫点を交流する。	【関】詩の表現を意識して、自分なりに工夫して読もうとしている。 【読】自分の印象や自分なりに大切だと思うところが伝わるように音読している。 【言】反復表現の工夫に気づいている。
9月	熟語の成り立ち 2時間(伝国②) ◎熟語の構成などについて理解を深めることができる。(伝国(1)イ(エ)・ウ(ア))	1 2	1 漢字二字・三字の熟語の成り立ちを理解する。 ・漢字辞典を使って意味を調べる。 2 ・漢字三字の熟語のでき方の特徴を捉える。 2 漢字四字以上の熟語の成り立ちを理解する。 ・熟語例を使って確かめたり、知っている熟語をつなげて、長い熟語を作ったりする。	【関】さまざまな構成の熟語について、進んで調べようとしている。 【言】語句の構成やその違いを理解している。

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	学習活動	評価規準
9月	<p>たのしみは 3時間（書③）</p> <p>◎短歌のもつ表現の効果を確かめたり、工夫したりすることができる。（書(1)オ、伝国(1)イ(カ)）</p> <p>◎作った短歌を発表し合い、表現のしかたに着目して助言し合うことができる。（書(1)カ）</p> <p>○短歌を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。（伝国(1)ア(イ)）</p> <p>■短歌を作る。</p>	1 2 3	<p>1 学習の見通しをもつ。 ・『たのしみ』をテーマに短歌を作ろう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p> <p>2 短歌にしたい場面を決める。 ・P89の短歌二首を読み、内容を理解する。 ・自分なりの「たのしみ」を探し、その時の様子や気持ちを細かく思い出す。</p> <p>3 選んだ「たのしみ」を短歌で表現する。 ・短歌のリズムや決まりを確かめる。 ・表現を工夫する。</p> <p>4 短歌を短冊に清書する。</p> <p>5 グループで、短歌を発表する。 ・表現のしかたに着目して感想を伝え合う。</p>	<p>【関】表現のしかたを確かめながら、短歌を作ろうとしている。</p> <p>【書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よりよくするための表現の工夫をし、条件に合わせて短歌を作っている。 ・作った短歌を発表し合い、表現のしかたに着目して助言し合っている。 <p>【言】語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもちながら短歌を作っている。</p>
9月	<p>漢字の広場③ 1時間（書①）</p> <p>◎5年生までに配当されている漢字を、正しく文の中で使うことができる。（伝国(1)ウ(ア)）</p> <p>・書いた文章を読み直し、表現の適切さを確かめることができる。（書(1)オ）</p> <p>■絵を見て物語を書く。</p>	1	<p>1 教科書の絵を見て、主人公や登場人物の行動から主人公の冒険を考え、作家になったつもりでファンタジーの物語を想像する。</p> <p>2 提示された言葉を使い、5年生までに習った漢字を、意味を考えながら正しく書き、例にならって絵にふさわしい物語を書く。</p>	<p>【関】絵を見て、様子を想像しながら物語を書こうとしている。</p> <p>【書】表現の効果などを確かめている。</p> <p>【言】5年生までに習った漢字を正しく使って、文や文章を書いている。</p>
9月	4 意見を聞き合って考えを深め、意見文を書こう			
10月	<p>未来がよりよくあるために 【資料】平和のとりでを築く 11時間（話・聞④、書⑦）</p> <p>◎話し合いで深めた考えをもとに、構成を工夫して、自分の意見を明確に伝える文章を書くことができる。（書(1)イ、伝国(1)イ(ア)）</p> <p>◎互いの考えの違いや意図をはっきりさせ、計画的に話し合うことができる。（話・聞(1)オ）</p> <p>○よりよい未来を巡る自分の意見が説得力をもつように具体例や資料を集め、適宜図表やグラフなどを用いることができる。（書(1)ア・エ）</p> <p>■意見文を書く。 ■グループで話し合う。 ☆平和を願う心を養う題材、国際協調の精神を養う題材（社会・道徳） ☆調べ学習（図書館活用）</p>	1 2 3 4 5 6 7 8 9 11	<p>1 学習の見通しをもつ。 ・「意見を聞き合って考えを深め、意見文を書こう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・P100「平和のとりでを築く」を読み、よりよい未来のための行動を考えるきっかけにする。</p> <p>2 「どんな未来にしていきたいか」を書き出す。 ・考えの根拠となる情報を、学校図書館やインターネットなどの資料から調べる。</p> <p>3 グループで意見とその理由を聞き合う。 ・音声CDを聞いて、話し方や質問のしかたについて、自分たちとの違いに気づく。 ・互いに助言や質問をして、考えを深める。</p> <p>4 意見文の組み立てを考える。 ・P98の作例も参考にしながら、意見文の書き方と工夫を確認する。 ・集めた情報や友達のを考えなどを付箋に書き出し、構成表を作る。</p> <p>5 意見文を書く。</p> <p>6 書いた意見文を、グループで交流する。 ・説得力がある書き方だと思った部分を伝え合う。</p> <p>7 学習を振り返る。 ・説得力をもたせるための工夫点や、友達の発言で自分の考えを深められたかを確認する。</p>	<p>【関】「未来がよりよくあるために」どのようなことをすればいいのか、友達の意見も聞いて考え、自分の考えを書こうとしている。</p> <p>【話・聞】互いの立場や意図をはっきりさせながら、質問や助言を入れて、計画的に話し合っている。</p> <p>【書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集のため、学校図書館やインターネットなどで資料を調べ、本や文章を読み比べて必要な情報を要約したり、引用したりして用いている。 ・自分の考えや意見とは異なる立場に立つ他者の存在を意識し、構成を工夫して書いている。 ・注釈や引用などを用いて、自分の意見が説得力をもつように書いている。 <p>【言】書き言葉と話し言葉の違いに注意しながら意見文を書いている。</p>
10月	<p>漢字の広場④ 1時間（書①）</p> <p>◎5年生までに配当されている漢字を、正しく文の中で使うことができる。（伝国(1)ウ(ア)）</p> <p>○書いた文章を読み直し、表現の適切さを確かめることができる。（書(1)オ）</p> <p>■絵を説明する文章を書く。</p>	1	<p>1 教科書の絵と言葉を見て、自分が見学したつもりになって、家の人に伝えたいテレビ局の様子を考える。</p> <p>2 提示された言葉を使い、5年生までに習った漢字を、意味を考えながら正しく書き、例にならって、テレビ局の様子を分かりやすく説明する。</p>	<p>【関】挿絵を見て、様子を想像しながら文章を書こうとしている。</p> <p>【書】表現の効果などを確かめている。</p> <p>【言】5年生までに習った漢字を正しく使って、文や文章を書いている。</p>

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	学習活動	評価規準
10月	生活の中の言葉 2時間 (伝国②) ◎日常の言語生活を見直し、敬語を適切に使ったり、世代間で言葉遣いが違うことに気づいたりすることができる。(伝国(1)イ(イ)・(ク))	1 2	1日常生活の中で出会うさまざまな人に対する自分の言葉遣いを振り返り、適切な言葉遣いができているかを話し合う。 2例文を見て敬語とその種類の違いを見つけることができる。 3後の例文の表現を適切な敬語に言い換える。 4世代による言葉の違いがあることを知り、自分の身の回りから例を探し、ノートに書いて発表し合う。	【関】 敬語や世代による言葉の違いを中心に、自分の言語生活を見直すとしている。 【言】 ・日常生活の中から、世代により言葉が違っている例を見つけ出している。 ・敬語の使い方を確認しながら例文を適切な表現に直している。
10月	5 自分の感じたことを、朗読で表現しよう			
	やまなし 【資料】 イーハートヴの夢 8時間 (読⑧) ◎作品の特徴や作者の思いを捉え、自分の感じたことが伝わるように朗読することができる。(読(1)ア・イ) ○場面についての描写を捉え、作品の中で使われている表現を味わいながら、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。(読(1)エ, 伝国(1)イ(カ)・(キ)・(ケ)) ■朗読で表現する。 ☆生と死を見つめる心を養う題材 (道徳)	1 2 3 5 6 7 8	1学習の見直しをもつ。 ・これまでの音読・朗読学習を振り返ったり、教材文の朗読CDを聞いたりする。 ・「自分が感じたことを、朗読にこめて表現しよう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2「やまなし」と「イーハートヴの夢」を読む。 ・賢治の生き方や考え方について話し合う。 3「やまなし」を自分なりに捉える。 ・二枚の青い幻灯を簡単な絵や図に表す。 ・「五月」と「十二月」の場面对比し、感じたことや考えたことをまとめる。 ・心ひかれる作者独特の言葉や表現に線を引く、その情景を想像する。 ・P132「言葉」をもとに、比喩の効果を考える。 4作者がなぜ「やまなし」という題名にしたのかを考える。 5グループで話し合い、朗読する場面を選ぶ。 ・どのように朗読するのか、音読記号を付けながら考える。 6グループで朗読の練習をする。 ・感じ取った自分の思いが伝わるかどうかを相互評価しながら、工夫して声に出す。 7みんなの前で選んだ場面を朗読し、聞き合った感想を互いに伝え合う。 8学習を振り返る。 ・着目した言葉や表現、朗読での工夫点を確かめる。	【関】 物語の情景や言葉の使い方に興味をもったり、作者の考え方や生き方を知ったりしようとしている。 【読】 ・読んで感じ取った自分の思いが伝わるように朗読している。 ・二つの場面を比べたり、資料を読んだりすることで、作品の特徴や作者の思いを捉えている。 ・場面についての描写を捉えて、優れた叙述について自分の考えをまとめている。 【言】 ・語のリズムや表現のもつ美しさについて関心をもちながら、物語を朗読している。 ・物語の構成について意識をもっている。 ・比喩などの表現上の特色について気づいている。
10月 11月	秋の深まり 2時間 (書②) ◎秋を感じる言葉を見つけて短歌を創作することができる。(書(1)ア, 伝国(1)イ(カ)) ・短歌を発表し、表現のしかたに着目して助言し合うことができる。(書(1)カ) ■短歌を作る。 ☆国語に対する関心と、我が国の文化と伝統に対する理解と愛情を養う題材 (道徳)	1 2	1「秋」を感じる言葉を出し合う。 ・二十四節気の意味を確認する。 ・俳句二句のおおまかな意味を捉える。 2「秋」をテーマに短歌を作る。 ・短歌の決まりを確認する。 3短歌を発表し合う。 ・「秋」を感じる表現のしかたに着目して助言や感想を伝え合う。	【関】 季節を表す言葉などに興味をもっている。 【書】 ・季節を表す言葉を集め、短歌を創作している。 ・短歌を発表し合い、表現のしかたに着目して助言し合っている。 【言】 「秋」を表す言葉の語感、言葉の使い方について関心をもちている。
11月	6 筆者のものの見方をとらえ、自分の考えをまとめよう			
	『鳥獣戯画』を読む 【コラム】 絵画や写真を見るときは 6時間 (読⑥) ◎絵と文章との関係を押さえて筆者の考え方を捉え、自分の	1	1学習の見直しをもつ。 ・P137の絵を見て感じたことを書く。 ・教材文を読み、筆者のものの見方や感じ方と自分の感じ方の違いに気づく。 ・「筆者のものの見方をとらえ、自分の考えをまとめる」という学習課題を設定し、学習計画を立	【関】 絵巻物に対する筆者の見解に興味をもち、文章を読もうとしている。 【読】 ・筆者がどのようなことを根拠として考えを述べているのかを捉えている。 ・筆者の意図と表現の工夫との関連につ

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	学習活動	評価規準
	<p>考えを明確にしながらか読むことができる。(読(1)ウ、伝国(1)イ(オ))</p> <p>○文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(読(1)オ)</p> <p>■絵を解説した文章を読み、自分のものの見方を広げる。</p> <p>☆我が国の優れた文化遺産について興味・関心を深める題材(社会)</p> <p>☆題材「鳥獣人物戯画」(図画工作)</p>	2 3 4 5 6	<p>てる。</p> <p>2 文章と絵を照らし合わせながら、教材文を読む。 ・P144に示された観点に沿って考える。 ・絵や絵巻物に対する筆者の説明と評価を捉え、自分の考えや感想をまとめる。</p> <p>3 筆者の表現や構成の工夫点を整理する。</p> <p>4 筆者のものの見方や感じ方と、自分の感じ方を比べる。</p> <p>5 P145②について、自分の考えをまとめる。 ・200字程度の文章に書く。</p> <p>6 書いたものを読み合う。 ・友達と自分のものの見方や感じ方の共通点と相違点を感想として伝える。</p> <p>7 学習を振り返る。 ・筆者の文章の書き方の工夫を確かめる。 ・ものの見方には多様性があることを確かめる。</p>	<p>いて考えている。</p> <p>・自分と他者とのものの見方や感じ方の共通点と相違点を明らかにし、自分の考えを深めている。</p> <p>【言】文末表現や助詞の使い方など、語句に着目して読み、語句と語句との関係を理解している。</p>
11月	<p>この絵、私はこう見る 6時間(書⑥)</p> <p>◎表現の効果を確かめたり工夫したりして書くことができる。(書(1)オ)</p> <p>○絵から感じたことの中から書くことを決め、全体を見通して事柄を整理することができる。(書(1)ア)</p> <p>○事実と感想、意見などを区別するとともに、必要に応じて絵の様子を簡単に書いたり詳しく書いたりすることができる。(書(1)ウ、伝国(1)イ(オ))</p> <p>■絵から読み取ったこと、感じたことを伝える文章を書く。</p> <p>☆芸術作品に触れ、鑑賞文を書く。(図画工作・音楽)</p> <p>☆関連読書(図書館活用)</p>	1 2 3 5 6	<p>1 学習の見通しをもつ。 ・学校図書館にある本やP150に紹介されている本を読むなどして、絵から読み取ったこと、感じたことを述べ合う。 ・「絵を見て読み取ったことや感じたことを、よりよく伝える」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p> <p>2 P148の絵を見る。 ・読み取ったことや感じたことを付箋に書き出す。 ・事実と感想を区別する。 ・何をどの順序で書くか決める。</p> <p>3 絵から読み取ったこと、感じたことを文章に書く。 ・P149の例や囲み内を参考にする。</p> <p>4 書いたものを読み合う。 ・絵の見方や表現についての感想を交流する。 ・交流後に、改めて絵を見る。</p> <p>5 学習を振り返る。 ・自分や友達がどのような表現の工夫をしたか確かめる。</p>	<p>【関】絵画に興味をもち、自分なりに絵から読み取ったことを伝えようとしている。</p> <p>【書】</p> <p>・絵の中にある情報を、適切に区別したり関連づけたりしている。</p> <p>・絵から読み取ったことと感じたことを区別して書いている。</p> <p>・自分の見方や感じ方が伝わるように、表現を工夫して書いている。</p> <p>【言】語句と語句との関係を考えながら、文章の中で使っている。</p>
11月	<p>漢字を正しく使えるように 【コラム】覚えておきたい言葉 2時間(伝国②)</p> <p>◎送り仮名や仮名遣いに注意して漢字を正しく書くことができる。(伝国(1)イ(ウ)・ウ(ア))</p>	1 2 3	<p>1 適切な漢字を書くための方法にならない、例に挙げられている漢字から適切に選ぶ。</p> <p>2 設問の漢字の間違いを正しく書き換える。</p> <p>3 「覚えておきたい言葉」に出てくる言葉について、辞書を引いて意味を知る。</p>	<p>【関】送り仮名や仮名遣いを確かめながら、漢字を書こうとしている。</p> <p>【言】送り仮名や仮名遣いを確認しながら、適切な表現に直している。</p>
11月 12月	<p>7 伝統文化を楽しもう</p> <p>伝えられてきたもの 狂言 柿山伏 「柿山伏」について 5時間(読⑤)</p> <p>◎「柿山伏」を、役割を決めて自分の思いが伝わるように音読することができる。(読(1)ア、伝国(1)ア(ア))</p> <p>○昔の人のものの見方や感じ方を知ったり、時間の経過による文字や言葉の変化に気づいたりすることができる。(伝国(1)ア(イ)・イ(イ)・ウ(イ))</p> <p>■伝統文化を楽しむ。</p>	1 2 4 5	<p>1 学習の見通しをもつ。 ・「柿山伏」の朗読CDを聞き、感想を交流する。 ・「狂言を楽しみ、音読しよう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p> <p>2 「伝えられてきたもの」を読む。 ・伝統文化についての知識を得る。</p> <p>3 「柿山伏」と『柿山伏』について」を読む。 ・狂言独特の表現と「柿山伏」の話の筋を理解する。 ・狂言のおもしろさについて考える。</p> <p>4 グループに分かれ、「柿山伏」の音読練習をする。</p> <p>5 音読発表をし、感想を交流する。</p>	<p>【関】日本の伝統文化に興味や親しみをもとうとしている。</p> <p>【読】狂言独特の表現や調子のおもしろさを意識し、楽しみながら声に出して読んでいる。</p> <p>【言】</p> <p>・現代に通じる昔の人のものの見方や感じ方について気づいたことを発表している。</p> <p>・現代と違う文字や言葉遣い、言い回しに気づいている。</p>

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	学習活動	評価規準
	☆我が国の優れた文化遺産について興味・関心を深めさせる題材（社会）			
12月	日本で使う文字 2時間（伝国②） ◎仮名および漢字の由来，特質などについて理解できる。（伝国(1)ウ(イ)）	1 2	1 「仮名の由来」を読む。 ・P170の一覧を見ながら，平仮名・片仮名の由来について理解する。 2 「日本語の表記について」「ローマ字との関わり」を読む。 ・日本語には，平仮名，片仮名，漢字交じり，ローマ字など複数の表記方法があることと，それぞれの特徴を理解する。	【関】日本で使うさまざまな文字について理解しようとしている。 【言】仮名及び漢字の由来，日本語の特質などについて理解している。
12月	漢字の広場⑤ 1時間（書①） ◎5年生までに配当されている漢字を，正しく文の中で使うことができる。（伝国(1)ウ(ア)） ・書いた文章を読み直し，表現の適切さを確かめることができる。（書(1)オ） ■絵を説明する文章を書く。	1	1 教科書の絵を見て，商店街の通りやお店の中の様子や会話を想像する。 2 提示された言葉を使い，5年生までに習った漢字を正しく書き，会話を入れた文章を書く。	【関】絵を見て，様子を想像しながら文章を書こうとしている。 【書】表現の効果などを確かめている。 【言】5年生までに習った漢字を正しく使って，文や文章を書いている。
12月	表現を選ぶ 3時間（伝国①，書②） ◎話し言葉と書き言葉の違いに気づくことができる。（伝国(1)イ(ア)） ○語句の係り方や照応のしかたなどに気づくことができる。（伝国(1)イ(キ)） ・目的に応じて書き言葉に表し，表現のしかたや構成に着目して助言することができる。（書(1)カ） ■話し言葉を書き言葉に書き換える。	1 2 3	1 教材文を読み，P172の例文を，人に伝える表現に変える。 2 なぜそのように変えたか発表し合い，その条件を整理する。 3 話し言葉と書き言葉の違いについて整理する。 4 相手や場面による違いを表にして整理する。 ・P175の設問について考え，友達と話し合う。	【関】話し言葉と書き言葉の違いに興味をもち，場面や相手に応じた表現をしようとしている。 【書】書き言葉に表して，表現のしかたに着目して助言し合っている。 【言】 ・話し言葉と書き言葉のそれぞれの特徴を理解している。 ・構成や内容を考え，適切な文を書いている。
12月	天地の文 1時間（伝国①） ◎親しみやすい古文について，内容の大体を知り，音読することができる。（伝国(1)ア(ア)） ○昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。（伝国(1)ア(イ)） ■音読する。 ☆国語に対する関心と，我が国の文化と伝統に対する理解と愛情を養う題材（道徳）	1	1 教材文を繰り返し音読する。 2 大意を参考に，内容の大体を捉える。 ・人の暮らしの基本となる時間，週日などの決め事について書かれていることを理解する。 3 筆者の考えについて，自分の感想を述べる。	【関】昔の人のものの見方や感じ方を考えようとしている。 【言】 ・古文の内容の大体を知り，特徴あるリズムを感じながら音読している。 ・昔の人のものの見方や感じ方を理解している。
1月	未知へ 1時間（読①） ◎優れた叙述を味わいながら，自分の気持ちと重ねて音読したり，考えたりすることができる。（読(1)ア・エ，伝国(1)イ(ケ)） ■詩を味わう。	1	1 教科書にある詩を音読する。 ・自分の気持ちと重なるところがあるか考える。 ・自分の気持ちが表れるように音読する。 2 詩から考えたことを文章にする。 ・詩を書き写す。 ・自分の気持ちをノートなどにまとめる。 ・まとめたものを友達と交流してもよい。	【関】詩の内容や表現のおもしろさを楽しみながら読もうとしている。 【読】 ・詩と自分の気持ちとを重ねて音読している。 ・優れた叙述に着目し，自分と重ねて考えている。 【言】比喩や反復の効果に気づいている。

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	学習活動	評価規準
1月	8 筆者の考えをとらえ、自分の考えと比べて書こう 自然に学ぶ暮らし 6時間（読⑥） ◎事実と感想・意見などとの関係を押さえながら文章の内容を的確に押さえ、筆者の考えと比べながら自分の考えを明確にすることができる。（読(1)ウ、伝国(1)イ(キ)） ○文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。（読(1)オ） ■意見を述べた文章を読み、自分の考えと比べる。 ☆自然の仕組みや環境問題に対するの関心を促す題材（理科・社会）	1 2 3 4 5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・教材文を読み、初発の感想を述べる。 ・「筆者の考えを整理して、自分の考えと比べて書こう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 筆者の挙げている事例を整理する。 ・自分たちの暮らし方と比べる。 3 筆者の考えている「新しい暮らし方」がどのようなかをまとめる。 4 筆者の考えと自分の考えを比べる。 ・筆者の「新しい暮らし方」について、自分の考えとの共通点・相違点を発表する。 5 自分の考える理想的な未来の社会について、文章に書いてまとめる。 ・書いた文章を読み合い、自分の考えを深めたり、広げたりする。 6 学習を振り返る。 ・筆者の考えと自分の考えを比べることで、自分の考えが広がったり深まったりしたことを確認する。	【関】 自然の仕組みとそれを暮らしに生かす筆者の考え方に興味をもって、文章を読もうとしている。 【読】 ・どのような事例や根拠を用いて、どのような考えを述べているのかを捉えている。 ・筆者の考えについて、経験や知識と照らし合わせて、自分の考えをまとめている。 【言】 目的に応じて文や文章にはいろいろな構成があることを理解している。
1月	漢字の広場⑥ 1時間（書①） ◎5年生までに配当されている漢字を、正しく文の中で使うことができる。（伝国(1)ウ(ア)） ○書いた文章を読み直し、表現の適切さを確かめることができる。（書(1)オ） ■絵を説明する文章を書く。	1	1 教科書の絵を見て、絵の中の少年の小学校生活について、いつ、どんなことがあったか、そのときどんな気持ちだったかを想像する。 2 提示された言葉を使い、5年生までに習った漢字を正しく書いて、出来事や気持ちを想像しながら文章を書く。	【関】 挿絵を見て、出来事や気持ちを想像し、分かりやすい文章を書こうとしている。 【書】 表現の効果などを確かめている。 【言】 5年生までに習った漢字を正しく使って、文や文章を書いている。
1月	忘れられない言葉 6時間（書⑥） ◎経験から書くことを決め、そこから自分の考えや気持ちを掘り起こし、書く事柄を整理することができる。（書(1)ア） ◎事実と感想・意見などを区別するとともに、意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすることができる。（書(1)ウ、伝国(1)イ(キ)） ■随筆を書く。 ☆生活を明るくし、強く正しく生きる態度を養う題材（道徳）	1 2 3 4 5 6	1 「随筆」という文章様式を知る。 ・「ふわふわの雪」を例に、「随筆」の書き方や内容の特徴を具体的に理解する。 2 「これまでに会った忘れられない言葉について随筆を書こう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 3 随筆の文章構成や工夫点を知る。 ・作例を読み、構成と表現の面から、工夫点を考える。 4 随筆を書く。 ・忘れられない言葉と、その言葉に出会ったときのことを書き出す。 ・下書きを友達と読み合い、助言し合う。 ・助言をもとに推敲する。 5 随筆を清書する。 ・作品を読み合い、感想を交流する。	【関】 随筆という文章様式を知り、自分らしさの表れた随筆を書こうとしている。 【書】 ・自分の経験を見つめ直し、書くことを決めている。 ・出来事などの描写と自分の気持ちや感想を書き分けている。 【言】 随筆という文章様式があることを理解している。
2月	カンジ博士の山登り 2時間（伝国②） ◎漢字クイズを通して、漢字の知識を確かめることができる。（伝国(1)ウ(ア)） ○紛らわしい送り仮名に気をつけて、読んだり書いたりすることができる。（伝国(1)イ(ウ)）	1 2	1 漢字クイズに取り組み、みんなで答えを確かめ合う。 2 ・グループで漢字の「読み方」「使い方」「送り仮名」に関する問題を作り、みんなで問題を解き合って楽しむこともできる。	【関】 漢字に興味をもち、漢字の知識や使い方を確かめようとしている。 【言】 漢字の知識を確かめたり、紛らわしい送り仮名の違いを確かめたりしている。

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	学習活動	評価規準
2月	春を待つ冬 2時間(書②) ◎冬を感じる言葉を知り、手紙を書くことができる。(書(1)ア、伝国(1)イ(カ)) ・自分の思いが伝わるように表現の効果を工夫することができる。(書(1)オ) ■手紙を書く。 ☆外国語に対する関心と、我が国の文化と伝統に対する理解と愛情を養う題材(道徳)	1 2	1 冬のイメージを広げる。 ・二十四節気という言葉の意味を確かめる。 ・自分が「冬」や「春」を感じる言葉を見つける。 ・「春」の写真や言葉と比べる。 2 季節の様子を入れて手紙を書く。 ・「これから迎える春」を意識し、自分の今の思いを書く。 3 友達どうして読み合う。 ・感想や助言をもとに推敲する。	【関】 季節を表す言葉などに興味をもっている。 【書】 ・季節を表す言葉を使って、今の自分の思いを伝える手紙を書いている。 ・表現の効果について確かめたり、工夫したりしている。 【言】 「冬」を表す言葉の語感、言葉の使い方について関心をもっている。
2月	9 登場人物の関係をとらえ、人物の生き方について話し合おう 海の命 6時間(読⑥) ◎教材文を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(読(1)オ) ○登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。(読(1)エ、伝国(1)イ(キ)) ■物語を読み、人物の生き方について話し合う。 ☆自分の生き方に対する関心を促す題材(道徳)	1 2 4 5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・「登場人物の関係をとらえ、人物の生き方について話し合おう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 教材文を通読する。 ・内容や場面分け、登場人物の関係を確認する。 3 登場人物の生き方や関係を捉える。 ・「父」「与吉いさ」「母」の生き方や思いを捉え、「太一」の考えや自分の考えをまとめる。 ・P214「言葉」を参考に、言葉の使われ方に注目する。 4 物語の「山場」を捉える。 ・「太一」の考えが変化したところと、そのきっかけを考える。 5 「太一」が「クエ」との遭遇を誰にも話さなかった理由について、話し合う。 6 登場人物のそれぞれの生き方について、自分の考えを文章にまとめる。 ・書いた文章を読み合い、友達と考えを交流する。 7 学習を振り返る。 ・登場人物の生き方をどのように捉えたのかを確かめる。	【関】 作品に描かれている登場人物のつながりや心情を読み取りながら、主人公の生き方について自分の考えをもととしてしている。 【読】 ・登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、人物の生き方について自分の考えをまとめることができる。 ・人物の生き方についての考えを交流し、自分の考えを広げたり、深めたりしている。 【言】 物語の構成を理解している。
2月 3月	今、私は、ぼくは 【コラム】効果的な資料を提示する 6時間(話・聞⑥) ◎今思ふことを伝えるために、必要な資料を準備し、話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すことができる。(話聞(1)ア・イ・ウ、伝国(1)イ(キ)・(ク)) ○話し手の思いを受け止めながら聞き、自分の思いや体験と比べながら感想をまとめることができる。(話・聞(1)エ) ■資料を提示しながらスピーチをする。 ☆自分の生き方に対する関心を促す題材(道徳) ☆話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いでスピーチをする。(総合的な学習の時間)	1 2 3 4 5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・これまでのスピーチ学習を振り返る。 ・卒業を前に今思ふことを、これまでお世話になった人々に伝えるという意識をもつ。 ・「話し方を工夫し、今の思いが伝わるスピーチの会を開こう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 自分が伝えたいことを考える。 ・自分の今の思いをノートに書く。 3 スピーチの内容と構成を考える。 ・発表のしかたを確認する。 ・自分の思いが伝わるように、構成を工夫する。 4 構成をもとに原稿を作り、資料を準備する。 ・グループでスピーチの練習をし、資料の使い方や話し方について助言し合う。 ・音声CDを聞きながら、場や聞き手を想定する。 5 スピーチの会を開く。 ・練習を生かして発表する。 6 学習を振り返る。 ・スピーチの会でもらった感想などをもとに、自分のスピーチの工夫点を確かめる。	【関】 伝えたいことを決め、それが聞き手によく分かるように内容をまとめて話そうとしている。 【話・聞】 ・伝えたい話題を決め、必要な資料を準備している。 ・適切に内容を組み立て、印象深く伝えるように話し方を工夫して、スピーチしている。 ・共通語と方言を使い分けるなど、相手や場に応じた言葉遣いをしている。 ・話し手が、何を、誰に、どんな思いで伝えようとしているかを聞いている。 【言】 場に応じて、適切な敬語を使っている。

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	学習活動	評価規準
3月	<p>卒業するみなさんへ</p> <p>中学校へつなげよう 生きる 生き物はつながりの中に かなえられた願い——日本人になること 5時間（読⑤）</p> <p>◎教材文を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。（読(1)オ）</p> <p>○自分の思いや考えが伝わるように朗読をすることができる。（読(1)ア）</p> <p>○作品や文章の中での言葉の使い方や表現の工夫に気づくことができる。（伝国(1)イ(オ)・(ケ)）</p> <p>■課題を決め、成果を発表する。 ☆自分の生き方に対する関心を促す題材（道徳）</p>	1 2 3 4 5	<p>1 学習の見通しをもつ。 ・単元名とリード文を確認する。</p> <p>2 「中学校へつなげよう」で6年間の国語学習を振り返り、学んだことをまとめる。</p> <p>3 「生きる」「生き物はつながりの中に」「かなえられた願い」を読む。</p> <p>4 四つの教材をもとに、自分で取り組みたい学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p> <p>5 学習計画に沿って、学習を進める。 ・教材の朗読を取り入れる。 ・6年間の学習の成果をまとめた交流会に向けて、準備をする。</p> <p>6 6年間の学習成果について交流会をする。 ・各自が取り組んだ課題の成果を、朗読も入れて発表し合う。 ・友達の発表を、自分の考えと比べながら聞き、考えを深める。</p> <p>7 学習を振り返る。 ・自分で学習を計画し、実行できたことを確かめる。 ・小学校での学習を振り返るとともに、中学校への抱負を述べる。</p>	<p>【関】 6年間で身につけた国語の力を使い、6年生の最後にふさわしい学習を自分の力でしようとしている。</p> <p>【読】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自が取り組んだ学習課題とその成果を聞き合い、自分が読み取ったことと比べて、共通点や相違点に気づき、自分の考えを深めている。 自分の思いや考えが伝わるように朗読している。 <p>【言】 文章を特徴づける語句と語句との関係や表現技法の工夫に気づいている。</p>